

平成 22 年 10 月 24 日

一紅会 歴史研究会 「幕末維新の旅」

房総の地に生きる

一駿河遠州諸藩士の維新一

渡辺房男

○ 新政府の徳川家処分

慶応 4 年(1868 年)4 月、東征軍の江戸城接收。閏 4 月 26 日、田安亀之助(後の徳川家達)が徳川宗家を継ぐ。

5 月 15 日、上野彰義隊の敗北。一部の旗本は宇都宮、東北、北海道に連戦

5 月 24 日、徳川家の領地として駿遠 70 万石が与えられる。

8 月 15 日、亀之助が静岡藩主として駿府城に入る。

○ 当時の駿河、遠州の諸藩と転封

7 藩の領地があったが、房総の地に国替えを命じられる。

沼津藩(水野家)5 万石 -----市原市

小島藩(滝脇松平家)1 万石-----君津市

田中藩(本多家)4 万石-----白浜町

浜松藩(井上家)6 万石-----長南町

掛川藩(太田家)5 万石-----芝山町

横須賀藩(西尾家)3 万 5 千石-----鴨川市

相良藩(田沼家)1 万石-----富津市

7 藩の藩士家族、約 2 万 5 千人が、明治元年 4 月かで移動。幕臣たちと 7 藩の藩士たちの大移動が始まり東海道を行き交う。

○ 房総の諸藩の幕末維新

上総と下総 (江戸を中心として・・・) (上総に以前から存在した藩)

久留里藩 3 万石(君津市)黒田家----- 新政府に恭順

飯野藩 2 万石(富津市)保科家----- 一部藩士が会津で抵抗、処分

佐貫藩 1 万 6 千石(富津市)阿部家----- 抗戦し処分される。

鶴牧藩 1 万 5 千石(市原市)水野家----- 恭順して維新後に加増

一ノ宮藩 1 万 3 千石(一宮町)加納家----- 恭順

大多喜藩 2 万 7 千石(大多喜町)長沼・大河内松平----- 抗戦し処分

請西藩 1 万石(木更津市)林家林忠崇(ただたか)----- 徹底抗戦

安房の諸藩

勝山藩 2 万石(鋸南町)酒井家----- 恭順(一部藩士は抗戦)

館山藩 1 万石(館山市)稲葉家----- 藩論は二分、最後には恭順

明治4年の廃藩置県の際の状況

上総国 12藩

安房国 3藩

(遠州横須賀の西尾家が花房藩として在籍)

明治4年7月に各藩はそのまま、県となるが、明治4年11月に合併し、木更津県となる(石高52万石、人口57万4682人、戸数11万508戸)

明治6年 千葉県成立

○ 請西藩1万石(木更津市)林家 林忠崇の反抗

鳥羽伏見の戦いの後、徹底抗戦を決意。旧幕府兵3000人が江戸から陣屋に現れる。

さらに、遊撃隊も木更津に出現。忠崇は遊撃隊と同盟。幕臣とともに江戸湾を渡り、官軍と徹底抗戦。

小田原、箱根での戦闘。さらに、会津戦争。その後、仙台で降伏。部下19人とともに。

その後、東京府の官員になる。昭和16年、94歳で死去。最後の大名として世を去った。

○ 房総移住の大名たちのその後

例として、沼津から移住した水野家5万石の歴史

千葉縣市原市菊間 (JR内房線 八幡浜下車)

1) 水野家

徳川家康の従兄弟 水野忠清の家系に連なる。寛永19年に信濃松本藩7万石の城主となった水野忠恒が殿中で刃傷事件を起こし、旗本に格下げ。その子忠友が將軍家重の側近となって活躍。安永11年、沼津の初代藩主となり、幕末まで続く。

2) 維新時の藩主 水野忠敬(ただのり) 17歳 恭順の意思を表明。沼津から房総の市原郡内2万3千石 さらに安房に一部領地。新政府から玄米千石、金1万5千両が下賜される。

3) 藩士の数

沼津在住 385軒 男1181人 女1188人

江戸詰め 97軒 男170人 女156人

4) 藩校

沼津時代以来の藩校「明親館」を建築。(明治元年)

明治4年11月 木更津県に引き渡される。

5) 藩士の移動

家屋の解体、駿河湾を舟で運び、市原郡八幡宿に揚陸。藩士たちも、舟で移動するものも多い。

6) 旧菊間藩庁(市原市菊間)

現在の菊間忠魂碑の地に建設。傍らの稲荷神社跡の碑には、藩主子孫の水野忠亮の忠魂碑は、数少ない菊間藩遺構である。現在、JR内房線で八幡宿駅下車。車で15分程度の距離にある。

7) 新坂道標

菊間藩主となった水野忠敬が造った道、新坂(しんさか)を記念したもの

○ 菊間藩時代のある騒動。

三河国での一事件。

明治 3 年秋、菊間藩の大浜出張所の服部小参事による神道強要政策に抗議する浄土真宗の僧たち。藩の政策に従った少数の真宗寺院への抗議行動が勃発。農民たちの一部が、その神道化策をキリスト教に改宗させる強要策と誤解した。僧たちと行動を共にし、酒に酔って藩役人を殺害。後に、政府による取調べが行われ、僧と農民の 2 人が処刑された。

○ 明治 4 年 7 月 14 日の廃藩置県の布告

わずか 4 年足らずの歳月のうちに菊間藩は消滅した。菊間藩は菊間県となり、水野忠敬は知事を罷免されて東京に移住。その後、明治 6 年、新たに生まれた木更津県に編入。以前から、菊間藩士たちは、領内の荒れた土の開墾。各藩士は、4 反歩から 6 反歩を開墾。米作りと茶の栽培を実施。

廃藩置県後の明治 5 年、開墾した茶畑は 3 町 9 反になって、ひとつの結社を作る。参加士族は、110 人。明治 7 年には、茶畑は 17 町余に広がる。

○ その他の菊間藩士たち。

明治 10 年までの就職先。 官吏 48 人、巡査 7 人、軍人 6 人、 区長 5 人。

その他の藩士、東京府へ 10 人、静岡県へ 15 人、 筑摩県、足柄県、浜松県に各 1 人。

○ 明治 45 年の調査によると、

藩士 640 戸の内く 250 戸はその後の所在が不明。

(以上)

明治の金融王 先見性が魅力



「激動の時代に、庶民の生きざまを見つめながら、自分なりの道を見つけ出していく善次郎の姿に魅力を感じる」と話す渡辺房男さん = 甲府・山日YBS本社

渡辺房男さん 1944年甲府市生まれ。NHK在職中「ゲルマン湖村を創った男」など。1999年「桜田門外」で第23回歴史文芸賞を受賞。2001年「円」で第15回大隈重信賞を受賞。代表作「脱税」など。

「激動の時代、世の中どう変わるか分からない時にこそ、本当に才能のある、力のある人間は能力を発揮する」。そんな思いから、デビュー以来、一貫して幕末から明治維新、大正と、日本経済の黎明期に光を当て続ける渡辺さん。自身7作目の「円を創った男」（2006年刊）で大隈重信を取り上げた後、次に題材とする経済人と

して真つ先に浮かんだのが安田善次郎だったと振り返る。富山藩の下級武士の家に育った善次郎は、少年のころ、藩に金を貸している大阪の商人が、藩の土に頭を下げさせている姿を目撃して金の力を思い知り、江戸に出て商人になることを決意。物語は

下級武士出身

「儲けすぎた男」小説・安田善次郎

の渡辺房男さん（甲府出身）

経済から歴史に切り込む小説を書いている渡辺房男さん（甲府市出身）の最新作「儲けすぎた男 小説・安田善次郎」は、裸一貫から財閥をつくった安田善次郎の半生を描きながら、幕末から明治、大正の激動期を展望する。辛抱、先見の明、勝負勘。こんなキーワードがびつたりはまる善次郎の生きざまは、混乱の時代に生きるわれわれ現代人にもヒントを与えてくれそうだ。



渡辺房男「儲けすぎた男 小説・安田善次郎」
（文芸春秋刊、1,680円）

日本経済の黎明期に光

1864年に26歳で日本橋に銭両替店「安田屋」を開くところから始まり、わずか16年で金融財閥の大本「安田銀行」を開業、一気に財界のトップへと駆け上がる過程を生き生きと描く。執筆にあたって国会図書館に足しげく通い、本人の自伝をはじめ「安田善次郎」と名のつく文献は「すべて読みあさった」。金もななく、名もなく、うだつのあがらない一生を送るしかない江戸時代の身分制度のなかで、「これでいいのか」と疑問を抱き、身ひとつではい上がった男。彼にもたらされた幸運は決して、偶然の産物ではなく、その知恵や勇氣、誠実さが運んだ必然に映る。

最大の転機は明治政府が発行した紙幣・太政官札。当時はまだ日本人が信用貨幣に慣れていないこともあって額面以下で取引されていたが、善次郎は「政情が安定すれば、政府が額面で太政官札を流通させる」と、周囲に笑われながらも財産を注ぎ込んで新紙幣を購入。見事にその読みがあたり、一気に富を増やした。「時の権力に逆らうのではなく、時代の潮流の先の先を読み、自分はどういうふうな身を処したらいいのかを考え、実行する」。そんな善次郎の姿に魅力を感じると語る。

上流見つめる

今回、一人の大商人を通して、日本資本主義の芽生えと発展の時代を描いた渡辺さんの目に、不況にあえぐ現代はどう映っているのか。「指針のない世の中だが、若い人たちは、ただ漫然と時代に流されるのではなく、上流を見つめる精神、上にもう一步踏み込んで歩いてみようという生き方を見つけてほしい」

「歴史の根底にあるのはお金、経済。経済的な問題があるからこそ、世の中は動く」と語る渡辺さん。次作でまとめようと考えているのは、「日本銀行券誕生までの歴史」。誰もが今、当たり前に手にしている「日本銀行券」に到達するまで、明治政府の人間がどんな努力、苦勞を重ねたのか、ノンフィクションで分かりやすく書いてみたいという。「お金には膨大な人間の知恵と努力が結集しているんです」。創作意欲は衰えを知らない。

房総に新天地を求めて
駿河遠州線藩の維新

平成22年10月24日（日）午後1:30-3:30（受付1:00～）

海員会館（勝どき）2階会議室に於いて 〒104-0053 中央区晴海3-7-1

TEL 03-3531-2216

URL <http://www.Tokvokaiinkaikan.com>

会費 1,000円

NO	卒業年次	お名前	NO	卒業年次	お名前
1	S30年	鮎川ますみ	21	S38年	市瀬金之助
2		尾崎 恵子	22		長沼 真
3		神田 四郎	23		小林 秀臣
4		近藤 文子	24		新海 行子
5		呉藤勢津子	25		鈴木 紀子
6		塩瀬 昭子	26		角田 等
7		神官司房義	27		鳥居 克彦
8		轟 佐知子	28	S39年	斉藤美都子
9		松尾 守	29	S40年	宇野由美子
10		八木原順子	30		深澤 保子
11		山本 絢子	31	S41年	山本 秀彦
12		井上 若子	32	S43年	竹中みゆき
13		清水 容子	33	S44年	杉本 恭子
14			34		三田富貴子
15	S33年	飯田富美子	35		峯川 文江
16		河内 一郎	36	S46年	西野 公江
17		鶴川 紘一	37		山下 恵子
18	S35年	作道 恒	38	S52年	佐藤 守
19	S37年	川島 民子	39		
20	S38年	一瀬 明	40		